

**【日本側コーディネーター及び拠点機関名】**

|                  |  |
|------------------|--|
| 日本側拠点機関名         | 京都大学ウイルス研究所  |
| 日本側コーディネーター所属・氏名 | 京都大学ウイルス研究所・朝長啓造   |
| 研究交流課題名          | ウイルス感染と宿主応答の総合的理解に向けた国際研究拠点形成  |
| 相手国及び拠点機関名       | 英国：インペリアル・カレッジ・ロンドン<br>米国：カリフォルニア大学ロサンゼルス校<br>ドイツ：フライブルグ大学<br>フランス：ストラスブール大学<br>ベルギー：リエージュ大学 |

**研究交流計画の目標・概要**

**【研究交流目標】 交流期間（最長5年間）を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。**

本研究交流の目的は、

- (1) ウイルス・感染応答の第一線の研究者が集う国際共同研究拠点の立ち上げ
- (2) これまでの個人レベルの共同研究と(1)の国際共同研究拠点を統合することで、各研究をさらに推進・発展させるとともに、新たな共同研究を促進すること
- (3) 国際性を兼ね備えたわが国のウイルス学研究的次世代リーダーの育成、である。

京都大学ウイルス研究所の連携グループ「感染症コアラボ」は、ヒトT細胞白血病ウイルスやRNAウイルスを認識する宿主因子の発見など、わが国におけるウイルス感染症研究の中心的な役割を果たしてきた。また、霊長類を用いたウイルス感染症モデルの作製など、ウイルス感染症の研究拠点形成に向けた活動を行ってきており、当該研究所は文部科学大臣認定の共同利用・共同研究拠点となっている。本研究交流では、この拠点機能をさらに国際的なレベルに拡大し、ウイルス・感染応答研究及び教育の先端拠点として立ち上げる。感染症コアラボでは、共同研究により、人類を脅かすウイルス感染症の克服を目指し、様々なウイルスを対象としたウイルス感染症の発症原因究明や抗ウイルス薬の探究を行っている。海外のウイルス・感染応答研究の第一線の研究グループとの人的連携をこれまでの分野を超えて深めることにより研究を推進し、新たな共同研究の萌芽にもいち早く対応する。特に、若手研究者の積極的な参画を促し、海外での研究と発表、人脈形成の機会を提供し、専門的な知識を深めると共に共同研究を企画・遂行するスキルを身に付けてもらう。

**【研究交流計画の概要】 ①共同研究、②セミナー、③研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。**

本交流は、感染症コアラボによる国際共同研究を主軸に展開する。各参画メンバーによる研究交流の概要は以下の通りである(1)インペリアル・カレッジ・ロンドン(英国)・リエージュ大学(ベルギー)とHTLV-1プロウイルスの組み込み部位と宿主免疫反応に関して研究を行う(松岡)。(2)カリフォルニア大学ロサンゼルス校(アメリカ)とヒト血液幹細胞移植マウスを用い、HIV-1感染プロセスとウイルス除去療法を研究する(小柳)。(3)フライブルグ大学(ドイツ)とポルナウイルスとインフルエンザウイルスの核内複製における宿主応答機構について解析を行う(朝長)。(4)カリフォルニア大学サンフランシスコ校(アメリカ)のとアルポウイルスの異なる宿主とのフィットネス獲得ならびに免疫回避機構を解析する(藤田)。(5)ストラスブール大学(フランス)と生物間で保存された自然免疫関連分子の機能解析と進化に関して研究を行う(竹内)。

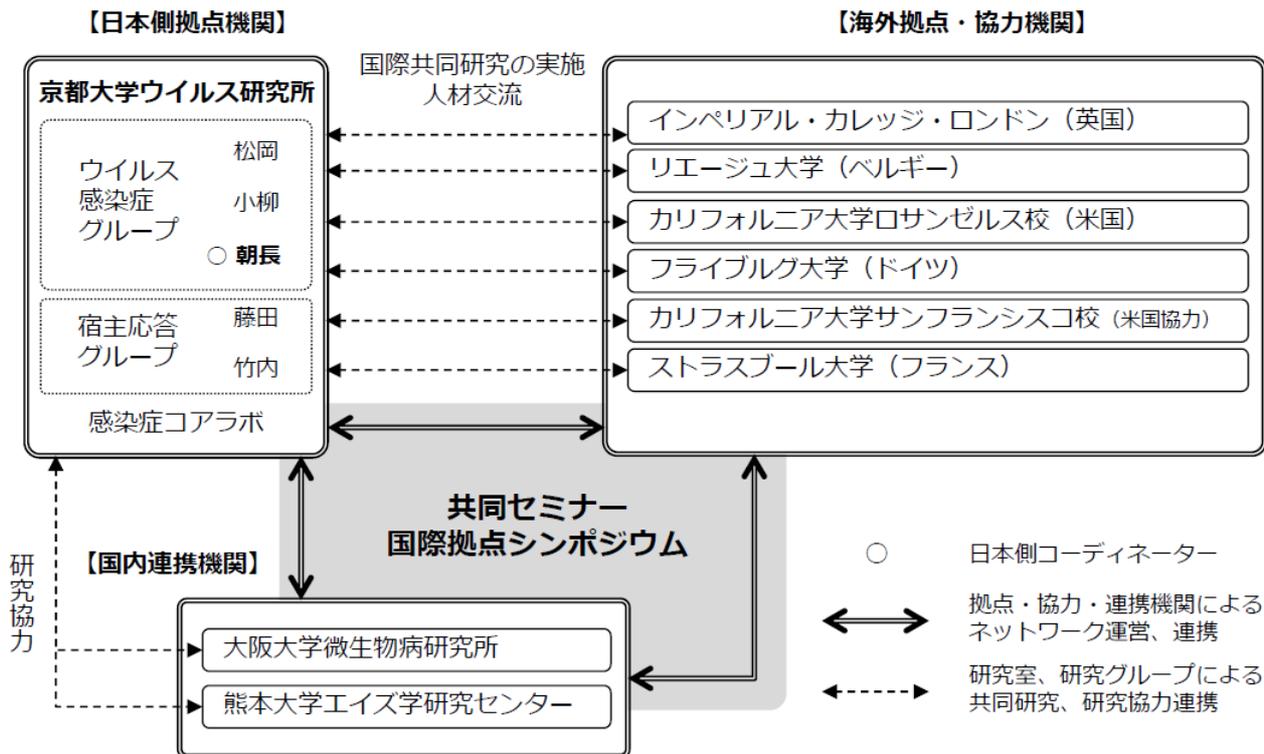
本事業では各感染症コアラボが各参画メンバーの共同研究の推進を目的に、共同研究先との共同セミナーの開催を企画するとともに、国際拠点シンポジウムの開催を提案していく。一方、海外共同研究先との連携を図るために、本事業に参画する国内感染症コアラボと相手機関の若手研究者の人材交流を推進する。具体的には、若手研究者の短期の派遣と受け入れである。また、本事業に参画する若手研究者・大学院生の国際性向上と発表スキルの向上に向けて、国際学会への参加や海外でのウイルス学に関連するトレーニングコース受講についても、本予算において支援を行う。さらに、拠点事業に参画する感染症コアラボ所属の若手研究者に対して、積極的に新規の国際共同研究を企画させるとともに、海外連携拠点の若手研究者と共に国際セミナーを企画させることにより、将来の国際共同研究を立ち上げ、これを担う能力を養う。

**【実施体制概念図】** 本事業による経費支給期間（最長5年間）終了時までに構築する国際研究協力ネットワークの概念図を描いてください。

**ウイルス感染と宿主応答の統合的理解に向けた国際研究拠点形成**

- 目的：①ウイルス感染症分野の国際的な研究軸の形成と国際研究協力体制の確立  
 ②国際性を備えた次世代のウイルス研究・生命科学研究のリーダー育成

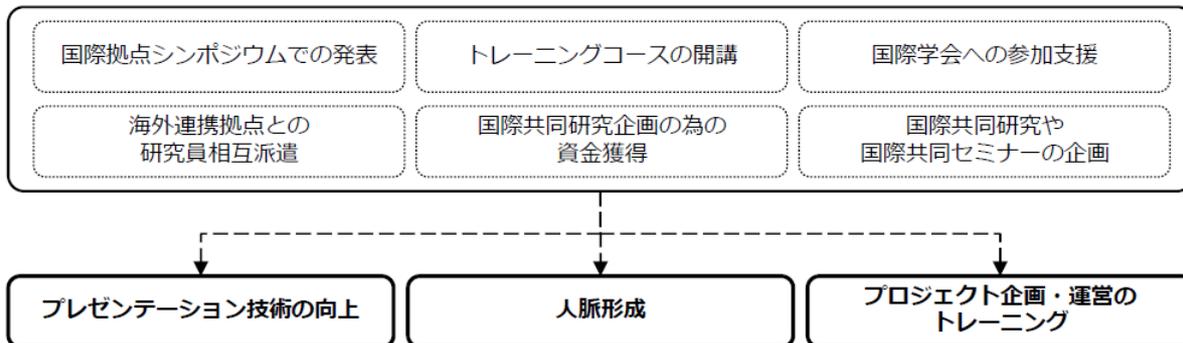
**①国際研究協力ネットワークの構築**



⇒ ウイルス・感染応答研究の最先端として、最新知見が合流した生み出されていく体制を創出

**②若手研究者の育成**

国内外の研究者との交流、ならびに海外研鑽を継続的に実施



⇒ 次世代の国際共同研究を企画・組織・実行できる実践的なスキルを身に付ける